

若者附中

熊本大学教育学部
附属中学校
学校日より

令和2年2月13日
第15号
《文責：高木》

求めてにびつたりだと思えます。

私たちが生きる

未来へ

選挙管理課課長

中野 涼太

「今の若者は、大きなことに興味がなく、て、身近な世界で満足出来るようになった。」

この言葉は、社会学者である古市憲寿さんが若者の生活満足度調査を見ていわれた言葉です。それでは、みなさんはどうでしょうか。ニースなどを見て

ありますか。社会の動きに関心がありますか。全員がすぐに「Yes」と言えないでしょう。全員が「Yes」と言えなければ民主主義とは言えません。なぜなら民主主義は、皆で動かすものだからです。

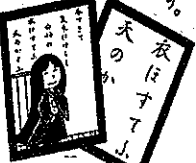
しかし、「じゃあ俺たちは、何をすればいいの？」と皆さんは考えるはずですよ。そう、そこで「附中生サミット」です。

今、日本や世界で起きている問題について議論し、より社会問題への関心を高めるきっかけになってほしいと思います。

この附中生サミットの開催には、たくさんの方からの支えがありました。先生方や来ていただく講師のみなさまの協力。そして、選挙管理課員は、昼休みや家での時間も使って準備をしてくれました。しかし、それだけでは附中生サミットは成り立ちません。みなさんからの踏みこんだ率直な意見を求めます。

自分達が生きる未来のために、附中生サミットを、よりよいものにしなす。

新しい発見
一年一組 田口 紗妃
私たち一年生は、二月十五日の授業参観で、百人一首をクラス対抗で行います。そのため、どのクラスも一首でも多く取る



って優勝しようと必死です。私は今回の活動を通して、百人一首の魅力を知ることができました。それは、一首一首に、それぞれのストーリーや詠んだ人の思いが込められているということです。
恋人に会いたい気持ちや自然のすばらしい景色に感動する気持ち、時代の変化をさびしく思う気持ちなど、詠んだ人の気持ちやそのまますべてあり、知れば知るほど百人一首が面白いと思うようになりました。そうすると自然に覚えれるようになり、前より礼を取れるようになりました。一組全体でも礼を取る音が下の句の初まりの音を聞かせるようになり、本格的になつてきたと感じています。
本番で良い結果に結びつくよう、残りの間、頑張りたいです。

計報のお知らせ

附中の農園を長きにわたり管理指導してくださった川越 登志彦様が令和二年一月三日にご逝去されました。川越様のこれまでのご尽力に感謝すると共に、ご冥福をお祈りしたいと思います。

真実を求めて

三年生の理科で、天体の学習をします。先日、井上先生(担任)の金星についての授業を参観しました。金星の見え方から金星の位置を特定しようという授業でした。

①自分の周りだけを見て、それが常識だと考えてはいけないうこと。 ②自分達の外の世界を、しっかりと観察する必要があること。 ③権威者や多数派の意見が絶対には正しくないこと。 ④先入観や固定観念にまどわされない健全な思考力をもつこと。 他にも学ぶ点はあると思えますが、①④の視点は、本校の綱領の冒頭のフレーズ「真実を

真実を求めたのは、皆さんも知っています。私達は、いくつかの事を、この先人の努力から学ぶことができています。自分の周りだけを見て、それが常識だと考えてはいけないうこと。自分達の外の世界を、しっかりと観察する必要があること。権威者や多数派の意見が絶対には正しくないこと。先入観や固定観念にまどわされない健全な思考力をもつこと。他にも学ぶ点はあると思えますが、①④の視点は、本校の綱領の冒頭のフレーズ「真実を

※前回の若者附中で、この欄外のコーナーに何も書かなかったところ、どうしたのですか? という問い合わせが数件。気の毒だコメントを思いつかないこともあったので、御理解ください。